

被爆
80年
平和講演会

講演

富田宏治先生

原水爆禁止世界大会起草委員長、
関西学院大学法学部教授

TREATY ON THE PROHIBITION
OF NUCLEAR WEAPONS
NEW YORK, 7 JULY 2017
ENTRY INTO FORCE

22 JANUARY 2021, IN ACCORDANCE
WITH ARTICLE 15,
REGISTRATION: 22 JANUARY 2021,
NO. 56487

STATUS AS AT: CH-1-2024 09.15.44 EDT

※2024年9月28日現在の署名国と批准国

SIGNATORIES
122

NOW...
SIGNATORIES
94

PARTIES
73

被爆体験のお話



三山正弘さん

京都在住の被爆者たちが開く写真展をきっかけに2020年から被爆者の語り部活動に参加するようになり、これまで中高生や大学生を相手に15回ほど講演。今年で80年。被爆者は高齢化し、証言の語り手が減っていると実感。「生きている間に、できることをやらなければ」。

花垣ルビさん

被爆体験をお話しながら、涙した海外修学旅行生、手紙の交流。さまざまな出会いがあります。…「人間がつくった核兵器は人間がなくなる。生きてる間に、なんとしても日本に参加してほしい。残された時間は限られています」



政治学者(専門は日本政治思想史)。

KOJI TOMIDA

明治以降、西欧諸国から移入されたデモクラシー思想が日本独自の定着、展開について研究。

主な著書『核抑止力』論を乗り越えるために一世界の真の対抗軸を見極める一(2022年)、『今よみがえる丸山眞男「開かれた社会」への政治思想入門』(2021年)、『新版 核兵器禁止条約の意義と課題』(2020年)、『人間の尊厳を築く反核運動』(2019年)、『丸山眞男「古層論」の射程』(2015年)、『核兵器はなくなるか?』(共著、2009年)など。

「あの日」のこと... 「日本被団協」

ノーベル平和賞受賞

が持つ意味を

あらためて考える

JAPAN CONFEDERATION
OF A- AND H-BOMB SUFFERERS
ORGANIZATIONS
: THE GREAT MEANING
OF THE NOBEL PEACE PRIZE

核抑止論を
乗り越える
方法とは

核兵器
禁止条約に
参加する日本へ

2025年 1月11日(土) (開場6時) 午後6時45分~

会場 京都教育文化センター103号室

当日、101号室で
高校生が描いた
「原爆の絵」や
被爆パネル展を実施

*詳しくは裏面

お申し込みは「かもがわサロン」へ

TEL: 075-415-7902 FAX: 075-415-7900

メール: nakachi@books-kaze.jp

(申込者には入場整理券・ハガキを郵送しますので、当日ご持参ください)

主催 原水爆禁止京都協議会、かもがわ出版、かもがわサロン

会費

800円



京阪本線「新宮丸太町」5番出口より東へ徒歩3分
京都市営バス31号・201号・203号「熊野神社前」下車、
徒歩5分

「日本被団協」
2024年
ノーベル平和賞
受賞

被爆から
80年

高校生、被爆者の方々が共同制作した、

原爆の絵

を展示します

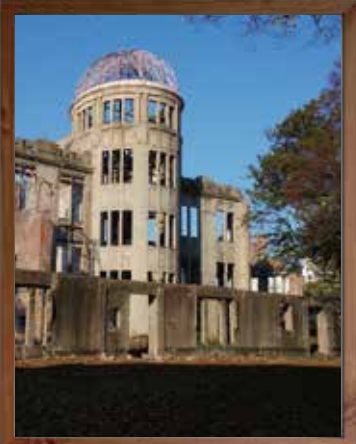
被爆体験をされた方々の記憶(the reality of the atomic bombings)を伝える「証言者(ご自身が被爆体験、もしくはご家族が被爆体験)」の方々と、その証言をもとに広島市立基町高等学校の生徒が描く共同制作、『次世代と描く原爆の絵』。

この取り組みは、「『被爆の実相』を広く知っていただきたい」という思いから2007年に始まりました。

「証言者と高校生の双方の思いに触れていただければ」との願いから、今回、平和講演会と合わせての企画が叶いました。

200数点の作品の内、会場スペースに合わせ30数点の作品を、解説や制作後の感想とともに展示致します。

ぜひ、足をお運びください。

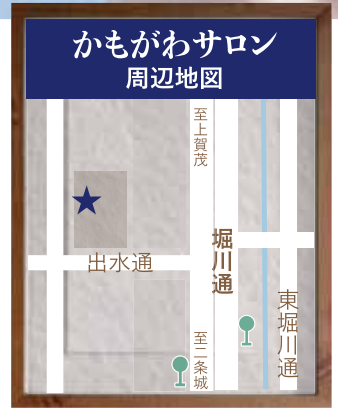


2025年

1月11日(土) 午後2時から
午後4時30分
会場 教育文化センター101号室

1月13日(月)-19日(日) 午前10時30分から
午後5時

会場 かもがわサロン・ギャラリースペース
TEL:075-415-7902 京都市上京区堀川通出水西入上
市バス9・12・50番で「堀川下立売」下車1分



富田宏治先生の著書

新版 核兵器 禁止条約の 意義と課題



A5判/128頁 定価1320円
2021.7刊行

8年前の核兵器禁止条約締結の際に刊行され好評を得た書籍の新版。2021年1月の条約発効を踏まえ、96頁から128頁へと内容を格段に充実させ、今後の展望を示す。条約全文の日英対照付きで、手元に置いて、将来にわたって活用可能。

- 条約の内容と意義を交渉の経緯から見る
- 条約を生んだ世界諸国民の歴史的な闘い
- 禁止から廃絶への新しいステージへ
- (資料として) 条約の全文を日英対照で紹介

語り継ぐ 京都「被爆2世 3世の会」 上巻 2020.7刊行 下巻 2021.12刊行

ヒロシマ・ナガサキの心

2025年で原爆投下から80年。この本は、京都「被爆2世・3世の会」が2013年から取り組んできた、被爆体験者の聞き取った記録です。上下巻で95名の方々の貴重な証言が寄せられ、「核抑止力」論を跳ね飛ばす貴重な記録集となっています。



A5判 上巻521頁、下巻522頁
各 定価2200円

上巻 ヒロシマ編(小野忠熙一日赤勤務の妹はガラスの破片が刺さった身体で看護にあたっていた/永原誠一15年戦争の果てに父、母、二人の妹を奪った原子爆弾/小高美代子一胎内のわが子と共に被爆/澤井美千代—私たちが最後の被爆者に/高橋正清—おやじを探し求めて歩き回った広島街の街 (ほか))

ナガサキ編(中野士乃武—燃え尽くす長崎の地獄絵の中を縦断して帰りついた私の被爆体験/川越潔子—家族8人全員のいのちを奪った原子爆弾/森美子—看護婦として召集された大村海軍病院で被爆者救護に従事して被爆/白石辰馬—海軍衛生兵として39日間 長崎の被爆者を救護/小笠原長四郎—“核爆弾”被爆体験記 (ほか))

下巻 ヒロシマ編(内田克子—親も子も孫までも不安と共に生きた70余年/住田紀美子—大芝公園で斃れた人々を思い起こしながら生きてきた/榎郷子—あの惨禍が二度とないように語り継ぐ/藤村敏夫—今も脳裏から消えることのない一口の水と少年の笑み/高安九郎(本名:小西建男)—手記 閃光の下の陣中日記 (ほか))

ナガサキ編(山本イソ子—やっとなどつりつた今の幸福/尾畑正勝—平和のために核兵器廃絶を訴え続けてきた/木之下フジ—長崎は私の白衣生活の原点/土肥恵美子—3人の息子を奪われた父の悲しみ/關桂子—原爆の閃光と私の家族たち (ほか))